

平成30年度
「大学生の力を活用した集落復興支援事業」
活動報告書
-福島県古殿町にて-



立命館大学 総合心理学部
サトゼミ・エンタープライズ
平成31年2月28日

目次

- 1.はじめに
- 2.活動の詳細
- 3.提言について

1 はじめに

私たち、立命館大学総合心理学部「サトゼミ・エンタープライズ」は、サトウタツヤ教授のゼミ生のうち、福島の活動に関心をもつ人達で活動を開始しました。

立命館大学総合心理学部は、立命館大学の大阪いばらきキャンパスに2016年に設置された新しい学部です。

ゼミ教員のサトウタツヤ教授は、立命館大学の着任前には福島大学行政社会学部の助教を務めており、福島との結びつきが強く、これまでも様々な活動を行ってきました。

今回の活動に際しては、福島県での活動に関心をもつ大学生4名、大学院生1名、教員1名が参加しました。

メンバー

代表：千藤 竜暉

1 田井中宥乃

2 大島経寛

3 國岡考典

4 饗庭桃子

教員 サトウタツヤ

概要

- 2018年8月、10月、12月に延べ10名が大阪府から古殿町を訪問し、地域資源(宝)を実体験し、あわせて町の方々(特に下松川地区の皆さん)と意見交換を行いました。
- 流鏝馬祭り、三株高原、チェーンソー、温泉、越代の桜など地域資源は豊富であることが実感できました。一方で町民の内部にもその価値が気づかれていないというジレンマがあることも感じ取れました。
- 12月に行った住民の皆さんとのディスカッションを通じて、① まつりのリニューアル、② 町内小中学校との連携、③ PRの工夫を次年度の実行課題として設定しました。
- 2018年10月には、立命館大学の学園祭の場を借りて古殿町の紹介を行いました。
- 2019年2月には、県知事の表敬訪問、成果報告を行いました。

2 活動の詳細

福島県古殿町は・・・宮本村と竹貫村が合併してできた町で、水稲産業が盛んな町です。また鎌倉岳、矢野山、入道山に囲まれておりたくさんの杉の木の景色が広がります。



現地活動報告

2018年8月13 - 15日 福島県訪問

古殿町の魅力を知ること、町役場を表敬訪問すること、福島県庁地域振興課ならびに福島県風評・風化対策監を表敬訪問すること、を主たる目的として、福島県古殿町、同福島市を訪問した。

訪問メンバー

- 1 千藤竜暉
- 2 田井中宥乃
- 3 大島経寛
- 4 國岡孝典

8月13日

古殿町役場を訪問。風間町長・副町長を表敬訪問。風間副町長は立命館大学の卒業生（校友）であり、一気に距離が縮まった。

古殿町役場 総務課 企画推進係 係長 平松さんにお世話になった。



宿泊施設、町営・大網庵を利用した。



8月14日

観光資源である三株山、入道温泉を体験した。



福島県庁訪問



2018年10月13-14日

メンバー

1 田井中宥乃



2018年12月1-2日

地域資源の確認と住民の皆さんとのディスカッションのため、現地訪問を行った。

メンバー

1 田井中宥乃

2 大島経寛

3 饗庭桃子

全体スケジュール

12月1日

午後2時00分 古殿町役場到着 ※企画推進係長誘導

午後2時30分 区長、三株牧野組合長と合流、三株高原を中心にフィールドワーク

午後6時00分 フィールドワーク終了

午後6時30分 下松川構造改善センターにおいて懇談会

12月2日

午前中 下松川地区を中心としたフィールドワーク

午後 アイディアまとめ

12月1日の活動

三株高原祭りが行われる三株山やその周辺の観光資源について視察した。

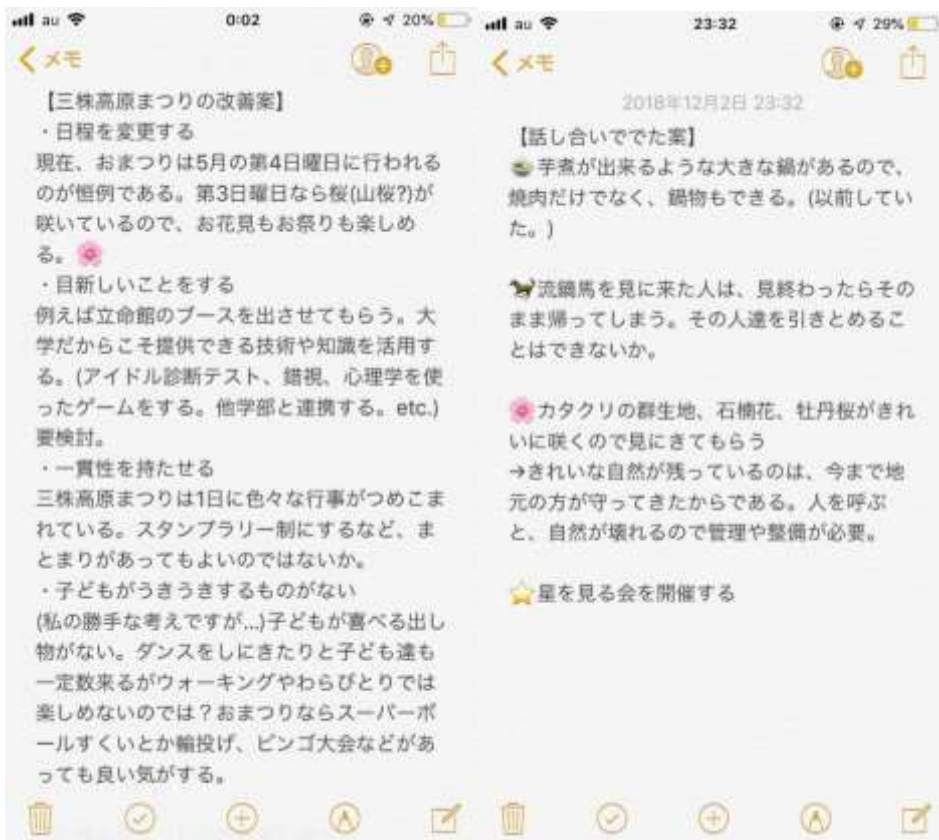


下松川構造改善センター（公民館）において、議論を行った。議論は3人の学生を中心に3グループに分かれて行った。





メモの一部



12月15日

下松川地区を中心に古殿町の魅力探索フィールドワーク



3 提言について

現地調査や町職員・住民の皆さんとの話し合いをもとに活性化の提言を行う。その際には私たちが心理学を専攻していることから、文化心理学の理論などを用いていきたい。

私たちが依拠する概念は以下のようなものである。

ナラティブ・アプローチ=語りを通して解決法を見出す

トラウマ=震災など大きな出来事の外傷体験

デマンド・プル=需要を引き出す

アドレッシビティ=(情報の) 受取人が受け取りやすいように (情報の) 差出人が工夫する

提案① まつりのリニューアル

- チラシのデザインの修繕
- プログラムの一部リニューアル
 - 焼き肉コーナー：ファミリー割
 - 流鏝馬：流鏝馬体験（VR流鏝馬, チェーンソーアートの馬に乗って動く的を射る, 乗馬体験）
 - わらび取り：袋詰め放題わらびの天ぷら
 - カラオケ大会：のど自慢大会
 - +Rブース：町内中学生と立命館大学生が協力してキッズコーナーを作る
- プログラムのタイムスケジュールの見直し
- 開催日を1週間早める（花見と同時開催）
- 来客者アンケートの実施

提案② 町内小中学校との連携

- 町内小中学校が学校行事としてまつりに参加
新学期のオリエンテーションとして
出し物の発表会としてなど
 - 小中学生に向けたPR
子ども→大人（家族）の誘客ルート
 - 中学生と立命館大学生の協働（+Rブース）
-
- ・継続的な参加 リピーターの獲得
 - ・町民が主体になれる

提案③ PRを工夫する

- ・町内・県内のファミリー層に効果的な広告媒体を調査しPRを行う

新聞 ラジオ

ファミリー層に効果的なPRの内容は？

- ・既存の広告のリニューアル